

## なからぎ

180号

2007年7月

## スワゲン、あるいは読むということ

文学部長 渡辺 信一郎

スワゲン、本名は須羽源一、高校時代の恩師の一人である。二年生のとき、漢文を習った。すでに五十代半ばを越えていたはずだが、当時高校生の中で流行しはじめたアイビー・ルックで登校した。トラッドのスーツを規則どおりに着こなしたので、いかめしい面立ちとの不似合いがきわだち、高校生の興味を一層そそった。「スワゲンのアイビー」と題する肖像漫画が、いくつかの教室の黒板に落書きされ、似ている、似ていないで、また物議をかもした。「紳士服より安いので着ているのや」と、本人が言っているという風聞が流れた。

スワゲンの授業は、しつこいというので評判だった。最初の時間、最初に当てられた女子生徒が教科書の本文第一頁を読み始めたとき、「もう一度最初から」と声が飛んだ。もう一度読みなおし始めると、また「もう一度」と声が飛ぶ。皆が当惑し始めると、「本は最初から読む。書いてあるものはすべて読む」のだといい、表紙の「漢文」、「文部省検定済」、出版社をひとつひとつ読んでその意味を解説し、さらに背文字、裏表紙、奥付の著者一覧、出版年月、版型まで確認した。本を読みはじめて以来の経験であり、その意図がわからず、印象だけが残った。

漢文訓読にも独特のくせがあった。教科書の訓点どおりに読んでも、「もう一度」と声が飛ぶ。七を「なな」、四を「よん」と読もうものなら、「君は赤穂四十七士をよんじゅうななしと言いますか」、そろばん訓みは漢文訓読では厳禁だというのである。スワゲンの訓み方で読まなければ、「もう一度」が繰り返され、長時間立たされ続けることになる。犠牲は、なぜか女子が多かった。先輩から聞いたとおり、下京の京都弁は、しつこかった。

饅頭屋の息子M君が、これもなぜかひょうたん島のドン・ガバチョのように義憤をつのらせ、男子に授業ポイコットを提案した。そこまでするほどの授業ではないという意見が大勢を占め、M君の提案は即座に否決された。おさまらぬM君は、スワゲンを驚かすために、今度は満点作戦を提案した。古典のうち、古文は70点、漢文は30点の配点だった。30点満点を輩出してスワゲンを驚かし、かつは見返してやろうというわけだ。わたしは友情もだしがたく、うかつにもこれに乗ってしまった。ほかにはだれもついてこなかったので、結局二人で満点競争という、ごく矮小化された矛の収め方で決着した。以後二人でスワゲンの訓み方を徹底的に分析し、というよりひたすら真似た。スワゲンが驚いたかどうか知らない。女子はあいかわらず犠牲となり、われわれは古文を犠牲にし、漢文の成績には時に満足することもあった。

須羽源一先生が、永樂屋の分家の出で、一級の書家であり、中国金石学・書道史の著名な研究者であることを知ったのは、大学院に入ってからのことである。スワゲンの訓読がある系統の訓読法であることも、知った。書誌から入り、書いてあることはすべて、一字一句ももらさずに読むことを教えていただいたことを、その頃やっと、ありがたく思えるようになった。

(わたなべ しんいちろう：文学部教授)

## 「経済学の名言」に学ぶ

図書館運営委員 川 勝 健 志

大学院生の頃にお会いした年配の先生方から、「私たちが大学生の頃は、経済学部に入學すれば、マルクス、エンゲルス、スミス、ケインズ、ヒックス等の著作を買い込み、難解な古典を四苦八苦しながらか勉強したものだ」と聞かされることがしばしばありました。私が大学に入學した1993年には、その時代に定着していた難解な古典に挑戦するという勉強法がすでについていたことは言うまでもありませんが、古典に学ぶことの重要性は今も昔も変わらないと思います。

佐和隆光著『経済学の名言100』(ダイヤモンド社、1999年)は、そのことをあらためて気づかせてくれます。学説史や思想史を本格的に研究したいわけではないが、経済学で名を馳せた数々の先人の言説を知りたい、古典的著作に挑戦したいが、誰のどの著作を読んでいるのかわからない、という方には大変便利で面白い本でもあります。本書は、何より気軽に古典に触れられるという楽しさがあります。以下では、本書にある100の名言の中から、私が個人的に気に入っているものを紙幅の許す限り取り上げ、著者の解説に基づきながら、順次紹介していきましょう。

「**経済トハ、国土ヲ経営シ、物産ヲ開発シ、部内ヲ富豊ニシ、万民ヲ救済スルノ謂ナリ。故ニ国家ニ主タル者ハ一日モ怠ルコト能ハザルノ要務ナリ**」(『経済要略』『日本思想大系45安藤昌益・佐藤信淵』所収、岩波書店、1977年、522頁)

経済学の語源とされる「経世済民の学」という名称の発案者として知られる江戸後期の学者、佐藤信淵の名言です。代々医家であった佐藤家の中であって、信淵が経済学を志したのは、「医者には、患者の治療という小さなことしかできない。国が衰退し、万人が困窮するといった大病を治すことをお前は志したらどうかね」と祖父に諭されたからだそうです。彼が発案した「経世済民」すなわち「世の中を治め、人々の苦しみを救う」という言葉の由来は、そうしたところからもうかがい知ることができます。よく言われるように、経済学とは、まさに社会を相手どる医学であるということを信淵は教えてくれています。

「**社会的苦悩を克服するために、自らの最善の能力をすすんで捧げようとする冷静な頭脳と温かい心情 (cool head, warm heart) を持つ人びとの数を、一人でも多くすることが、私の念願である**」(『ケインズ全集第10巻・人物評伝』大野忠男訳、東洋経済新報社、1980年、225頁)

イギリスの経済学者、アルフレッド・マーシャルがケンブリッジ大学教授に就任した際に行われた公開講義での名言です。この名言は、実は私自身が経済学の研究者を目指そうと決心する大きなきっかけを与えてくれた言葉であり、最も感銘を受けた言葉の1つでもあります。私は高校時代、硬式野球部で投手をしていたのですが、当時の恩師にかけられた「投手は、常に冷静に燃えなければならない」という言葉を高校卒業後も人生の教訓としてきました。文脈はまったく違いますが、そのことが「私の中では」マーシャル教授の名言と重なりあったのかもしれない。

受験生の間での経済学部の人気は、「万有引力の法則(“上がったものは必ず下がる”)は日本の金融市場には当てはまらない」とまでいわれたバブルの時代や、いまだ記憶に新しいホリエモンが世を騒がし始めた頃に急上昇したそうです。経済学は「金儲けの学問」だと誤解している人が少なくない1つの証拠と言ってよいでしょう。私など一生をかけてもマーシャル教授の足元にも及びませんが、社会的苦悩を克服するために微力を尽くし、「冷静な頭脳と温かい心情」をもつ教え子を一人でも多く世に送り出していきたいものです。

「**「資本主義」は中国にも、インドにも、また古代にも中世にも存在した。しかし、そうした「資本主義」には独自のエートスが欠けていたのだ**」(『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』大塚久雄訳、岩波書店、1988年、30頁)

経済学だけでなく、法学、政治学、社会学など広範な分野に大きな影響を与えたドイツの社会学者、マックス・ウェーバーの名言です。彼のいうプロテスタンティズムの倫理が育んだ「資本主義の精神」の生みの親となったのは、「命知らずの厚顔な投機家や冒険家、大富

豪などではなく、むしろ厳格な生活のしつけのもとで成長し、厳密に市民的な物の見方を身につけて熟慮と断行を兼ねそなえ、とりわけ醒めた目でまたたゆみなく物事に打ち込んでいくような人々」です。つまり、「勤勉を徳と心得る」ことこそが、「近代資本主義の精神」に他ならないとウェーバーは言っているのです。

著者は、80年代半ばを過ぎた頃から、日本では「汗水垂らして働く」ことがさげすまれ、「頭を使って投機で金儲けをする」ことが尊ばれるようになったと嘆いておられますが、日本は本当にそんな世の中になったのでしょうか。たしかに後者のような人たちが今日かなり増えたとは思いますが、私は彼らが一時的に尊ばれることはあっても、これから先もずっと尊ばれるような存在になるとはとても思えません。ウェーバーの教える「勤勉を徳と心得る」精神は、多くの人たちの奥底にいまなお脈々と流れる日本の古きよき伝統そのものであり、そう簡単に崩壊するものではないと信じているからです。もちろんそれは、「投機で金儲けをする」こと自体を否定するものでないことは、言うまでもありません。

**「人がある事を知らないというとき、偶々そうなのではなく、巧妙に仕組まれた障壁ゆえにそうであることが多い」**（『経済理論と低開発地域』小原敬士訳、東洋経済新報社、1959年、148頁を著者が改訳）

『アジアのドラマ：諸国民の貧困の一研究（上）（下）』（板垣与一監訳、東洋経済新報社、1974年）に代表される数々の著作の中で発展途上諸国の貧困の問題を問い続け、1974年にノーベル経済学賞を受賞したK・G・ミュルダールの名言です。先進国に住む豊かな人々が国内外にある貧困や貧者の苦しみを見ようとしなないのは、豊かな人々が不快感を催す事実を見えにくくする心理的かつイデオロギー的障壁がどこの国にも存在するからだ、とミュルダールは言っているのです。

本書でも取り上げられている有名なエピソードを1つ紹介しましょう。1997年12月に京都で催された地球温暖化防止会議において、「発展途上国の全部または一部が温室効果ガスの抑制・削減を約束しない限り、削減義務を引き受けまい」と主張するアメリカに対し、中国

代表が次のように言い放ったそうです。アメリカの言い分は、「粗末な竈で煮炊きをする貧者に対して、シルクハットをかぶり、お厚いオーバーを着た紳士が暑過ぎるからその火を消せと言うに等しい」と。京都會議でのアメリカの主張は、ミュルダールのいう「途上国の貧困を知ろうとしない」態度の典型例といえるでしょう。

**「これ以上公債を発行しても国民の消化力がないと云うやうな場合に臨めば、国防費と雖も已むを得ず打切らねばならぬ」**（高橋是清遺述『国策運用の書』斗南書院、1936年、58頁）

日中戦争へ向けて陸軍の独断専行が相次ぐ中、当時大蔵大臣であった高橋是清が昭和9年2月7日の衆議院予算委員会において、軍部の予算拡大要求に抗して吐いた名言です。膨張する国防予算を税金で賄うのが無理だというのは、公債発行で資金を調達してはいかがとの質問に対して、市中の公債消化力を超えて公債を発行するのは自殺行為だと答弁したのです。

著者も述べているように、当時、国防費の増額は至上命令だったでしょうし、「万難を排して戦費を調達し、満蒙の地を領土にすれば必ずや国は富む」とする軍の意向を無視することに蛮勇を要したことは想像に難しくありません。是清が希代の財政家としてその名を轟かせたこともうなずけるエピソードといえましょう。いまや累積赤字が800兆円にも迫る勢いで増え続ける日本の財政状況を、是清は雲の上からどのように眺めているのでしょうか。「財政のけじめ」について語った彼の含意を、私も財政学者のはしくれとして深く受け止めなければならないと感じ入った次第です。

ここまでお読みになられた方は、おそらく「経済学の名言」の魅力にとりつかれ始めていることでしょう。ここで紹介した名言以外にももっと知りたくなった方は、ご自分でお読みになり、お気に入りの名言リストなど作られてはいかがでしょうか。

最後に、とても名言とまではいきませんが、研究者としての私をこれからも支えてくれるであろう言葉をひとつご紹介しましょう。「**努力は一時のもの、知識は永遠のもの**」。

（かわかつ たけし 福祉社会学部准教授）

ご紹介の「経済学の名言100」ダイヤモンド社1999年刊（請求記号 331.04 Ⅱ S）、「日本思想大系45」岩波書店1977年刊（請求記号 121.08 Ⅱ N Ⅱ 45）、「ケインズ全集第10巻・人物評伝」東洋経済新報社1980年刊（請求記号 331.74 Ⅱ K Ⅱ 10）、「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」岩波書店1988年刊（請求記号 331.5 Ⅱ W）、「経済理論と低開発地域」東洋経済新報社1959年刊（請求記号 333.8 Ⅱ M）、「アジアのドラマ：諸国民の貧困の一研究（上）（下）」東洋経済新報社1974年刊（請求記号 332.2 Ⅱ M Ⅱ 1~2）は、2階閲覧室入口の新着コーナーに配架しておりますのでご利用ください。「国策運用の書」斗南書院については、川勝先生にお尋ねください。



# 府大生の読書傾向

## ～ 2006 年度ベストリーダー ～

至上最高の貸出冊数だった昨年度 (詳細は本号「平成18年度の図書館利用者サービスをふりかえって」を参照して下さい)。どんな資料が利用されたのでしょうか? 貸出回数の多いベスト50を一覧にしてみました。

上位にはみごとに小説が並びました。映画化やドラマ化された話題作のタイトルが多く見られます。その中で、村上春樹著『ノルウェイの森』はベスト50に毎年顔を見せる常連さんです。1987年、つまり20年前に出版され、当時もベストセラーでしたが、今なお若者たちに読み続けられています。

2006年度は、貸出冊数が物語るように、多くの資料が利用された1年でした。貸出されたタイトル数を見ると11,256点。2005年度が9,547、2004年度が10,150だったのと比較して、大きく伸びています。

本学には色々な学部があるので、利用者のみなさんが必要とされる専門分野の資料は人それぞれ。なかなか小説のように多くの人が手に取るというわけにはいきません。

しかし、学生希望で購入された専門書は、多くの学生に利用されています。日々のカウンター業務の中で、それはひしひしと感じます。残念ながらベスト50には入りませんでした。100位までには、学生希望で購入した菌類の洋書や語学学習の資料なども入っています。

ひとつの好例がありますので、ご紹介しましょう。『くうねるところにすむところ』という建築関係のシリーズがあります。装丁は絵本のようなのですが、執筆者は、建築・住居の専門家で、「家」や「住む」ということに関してわかりやすくまとめられている本です。本学以外の多くの大学図書館にも所蔵されています。2004年の学生希望で、まず9冊入りました。学部生、院生を問わず、よく利用されており、シリーズ全てが貸出中ということもあります。最近、そのシリーズの中の昨年発行されたあるタイトルの学生希望がありました。前にリクエストされた学生さんとは在籍が重なっていない別の方からです。同じ学生ならではの視点で選ばれた本なんだなあと感じました。この資料も、希望者本人だけでなく、多くの学生さんに利用されることになると思います。

リニューアルで、2階閲覧室に並んでいる資料もここ数年増加しています。また、先生方と協力し、学習に役立つ資料の選書にも力を入れています。今年度も、前年度以上にみなさんに利用される図書館になれるよう、日々奮闘中です。

順位	タイトル/著者	回数
1	天使の梯子/村山由佳著	18
2	東京タワー: オカンとボクと、時々、オトン/リリー・フランキー著	17
3	容疑者Xの献身/東野圭吾著	16
4	となり町戦争/三崎亜記著	15
4	ハリー・ポッターと謎のプリンス 上/J.K.ローリング作	15
6	終末のフルール/伊坂幸太郎著	15
7	この胸いっぱい愛を/梶尾真治著	14
7	ハリー・ポッターと謎のプリンス 下/J.K.ローリング作	14
7	白夜行/東野圭吾著	14
10	ダ・ヴィンチ・コード 上/ダン・ブラウン著	14
11	天使の卵/村山由佳著	13
12	風味絶佳/山田詠美著	13
13	ダ・ヴィンチ・コード 下/ダン・ブラウン著	13
13	砂漠/伊坂幸太郎著	13
13	ノルウェイの森 下/村上春樹著	13
16	魔王/伊坂幸太郎著	12
17	アフターダーク/村上春樹著	12
18	古代天皇制を考える(日本の歴史:08)/大津透 [ほか] 著	12
19	ひとりずもう/さくらももこ絵と文	11
20	神の子どもたちはみな踊る/村上春樹著	11
21	英語で話そう! マーガレット・ブライズ監修	11
22	ハート基礎有機化学 3訂版/H.ハー他著	11
23	サガから歴史へ: 社会形成とその物語/熊野聰著	11
24	蛇にピアス/金原ひとみ著	10
24	ノルウェイの森 上/村上春樹著	10
26	死神の精度/伊坂幸太郎著	10
26	バスジャック/三崎亜記著	10
28	中世の形成(日本史講座:第3巻)/歴史学研究会, 日本史研究会編	10

順位	タイトル/著者	回数
28	いま、会いにゆきます/市川拓司著	10
30	ICO: 霧の城/宮部みゆき著	10
31	論語(講談社学術文庫/[孔子著]/加地伸行全訳注	10
31	都市国家から中華へ: 殷周 春秋戦国(中国の歴史: 02)/平勢隆郎著	10
33	スコア別TOEIC test grammar/パーフェクト攻略 改訂版/松野守峰著	10
34	ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団 下/J.K. ローリング作	9
34	百器徒然袋: 風: 探偵小説/京極夏彦著	9
34	1リットルの涙: 難病と闘い続ける少女亜也の日記/木藤亜也著	9
34	ねじまき鳥クロニクル 第1部/村上春樹 [著]	9
34	モモ: 時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語/ミヒヤエル・エンデ作	9
39	生化学・分子生物学 第2版/William H. Elliott他 [著]	9
39	重力ピエロ/伊坂幸太郎著	9
39	雨の日のイルカたちは/片山恭一著	9
39	ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団 上/J.K. ローリング作	9
39	スポーツニクの恋人/村上春樹著	9
44	図解植物分子細胞生物学/芦原坦, 作田正明共編	9
44	シュトルム・回想と空間の詩学/加藤文雄著	9
46	野菜栽培の基礎 新版(農業基礎セミナー)/池田英男, 川城英夫他編著	9
46	ゲノムサイエンスのための遺伝子科学入門/赤坂甲治著	9
46	LOVE/古川日出男著	9
49	検出・構造解析法(基礎生化学実験法:第3巻. タンパク質:1)/日本生化学会編	9
50	大学生の有機化学/大野惇吉著	9
50	フランケンシュタイン/M.W.シェリー著	9

※1. 白抜文字は、学生希望図書(本学後援会寄贈・図書館予算)  
 ※2. 貸出回数と同じものは、貸出人数が多いものを上位としました。

## 平成18年度の図書館利用者サービスをふりかえって

### ～学生1人当たりの貸出し冊数が9冊に～

全国調査の公表が2年遅れになるので確定とは言えませんが、おそらく18年度の学生1人当たりの貸出し冊数は全大学平均を初めて上回ると考えられます。(表①参照)

【表①】過去10年間の貸出し冊数推移

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
総貸出冊数	11,425	10,429	10,363	10,851	10,590	13,388	14,868	17,888	16,774	19,750
学生総貸出冊数	10,803	10,092	9,832	10,547	10,234	13,194	14,046	16,617	15,601	18,414
内大学院	721	203	1,179	1,298	1,468	2,056	2,773	2,901	3,061	3,394
内学部生	10,082	9,889	8,653	9,249	8,766	11,138	11,273	13,716	12,540	15,020
その他							122	674	440	583
学生数	1,755	1,636	1,734	1,807	1,850	1,953	2,016	2,042	2,057	2,044
学生1人当り貸出冊数	6.16	6.17	5.67	5.84	5.53	6.76	6.97	8.14	7.58	9.01
国立大学(学生1人当り)	9.27	9.34	9.39	9.43	9.50	9.56	9.88	9.54		
学生貸出冊数(1館当)	19,031	19,553	19,755	20,093	20,256	20,367	21,040	21,579		
公立大学(学生1人当り)	11.10	12.16	12.34	12.13	12.57	12.13	12.18	11.71		
学生貸出冊数(1館当)	11,476	11,333	12,735	13,209	13,241	13,157	13,215	14,347		
私立大学(学生1人当り)	6.82	7.42	6.77	7.13	7.16	7.29	7.75	7.72		
学生貸出冊数(1館当)	17,682	17,938	18,356	18,336	17,850	17,971	19,023	19,136		
全大学(学生1人当り)	7.51	8.04	7.53	7.83	7.90	7.98	8.40	8.28		
学生貸出冊数(1館当)	17,548	17,775	18,228	18,321	18,016	18,104	18,970	19,383		

参考資料：文部科学省 「大学図書館実態調査結果報告」「学術情報基盤実態調査結果報告」

貸出し冊数が総数でも、1人当たりでも増加した要因として下記の3点が挙げられます。

#### ① 新規購入図書が増加

電子ジャーナルに関する基本的な考え方として、電子ジャーナルは主に研究用雑誌の形態が電子版になったもので、その費用は研究費から手当することを原則とする。図書館の図書費とは分け、流用はしないことが17年度末に確認されました。

これにより、学生の皆さんの自主的な「学習」を支援したり、多様化する読書要求にも応えられる「選書」ができるようになりました。

先生方からは「学習基本図書リスト」を18年度の途中からになりましたが提出していただきました。このリストには、自主的な学習に必要な図書、講義等で紹介されている図書を挙げていただきました。絶版品切の図書も古書店へも手配した結果、ほぼ揃えることができました。

図書館側も全体の蔵書構成を考え、カウンターで日々学生さんと接する事で得た読書ニーズや新しい研究課題にも対応できる選書を心がけてきました。

これらの結果、年間を通して途切れることなく、新着図書が書架に並ぶようになりました。

来年度以降学部の再編や学科の新設等がある中で、それに相応しい蔵書づくりや充実が必要になってきます。

#### ② 閲覧室のリニューアル

17年度末の大幅書架増設で、18年度はゆとりを持って図書を配架できるようになりました。書庫にあった基本的図書も開架に戻し、学習・研究に役立つようにしました。18年度末の書架増設により、和書と洋書を一体化させて配架することにしました。同じ分野の図書を同時に見ることができるよう、資料選択の幅が広がったのではないのでしょうか。

府大関係資料コーナーも拡大し、新たに「府大教科書」(講義で使用されるテキスト類)も配架するようにしました。現在はごく一部の教科書しか配架されていませんが、この資料群が充実していくと次年度以降の学習計画に大いに参考になるはずです。

#### ③ 学生希望図書制度の定着

学生希望図書制度を実際に利用されている学生さんの記事を、「なからぎ」に掲載してきました。(「なからぎ」175号、179号)この制度が図書館利用者の中に徐々に定着した結果、18年度は後援会から頂いている予算を11月頃には消化してしまうほどの盛況ぶりでした。(19年度はそれを上回る勢いです。)

学生希望図書で購入した図書は、申込みをした学生以外にも多く利用されている図書であるというのが統計上わかります。(本号「府大生の読書傾向」をご覧ください。)府大生が今読みたい本をリクエストしているのですから当然かもしれません。

～多様化する図書館間相互協力～

平成16年度から文献複写等料金相殺制加入後、大学間等の相互協力業務が活発になったということは「なからぎ」176号でも紹介しました。18年度は電子ジャーナルの本格導入で、複写取寄せ依頼が減少するかと思いましたが、最終的には微増でした。これは大学・研究所への依頼は昨年より減少していますが、それ以外の図書館(国会図書館、公共図書館、外国等)への依頼が増加したためです。利用者が要求する資料の幅が広がったためと考えられます。また、国立大学への依頼が減少したのには、**機関リポジトリ** 注1の影響があるかもしれません。(表②、③参照)

【表②】過去5年間の大学間等相互協力業務件数の推移 (平成16年度から料金相殺制度加入)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
複写依頼	1,833	1,584	2,028	2,142	2,153
複写受付	276	345	1,450	1,801	2,017
貸借依頼	135	138	137	107	110
貸借受付	40	41	92	118	150
閲覧依頼	1,045	734	521	458	385
閲覧受付	90	132	165	154	167

【表③】過去3年間の館種別複写依頼件数の推移

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
国立大学	1,000	981	841
公立大学	341	308	346
私立大学	498	640	718
短期大学	4	4	6
研究所	107	156	163
高専	10	1	1
大学関係 計	1,960	2,090	2,075
国会図書館	36	36	63
公共図書館	1	1	5
その他	0	10	4
外国	31	5	6
大学以外 計	68	52	78
合計	2,028	2,142	2,153

注1 機関リポジトリ…大学内で生産された研究成果(学術論文、学位論文、科研費報告書、講義資料、教材等)を電子的に蓄積・保存し、学内外に無料でWeb公開したもの。  
国立大学を中心に公開する大学増加。  
国内の機関リポジトリの一覧  
<http://www.nii.ac.jp/irp/info/list.html>

カレンダー

2007年7月							2007年8月							2007年9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
8	9	10	11	12	13	14	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
15	16	17	18	19	20	21	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
22	23	24	25	26	27	28	26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28	29	
29	30	31					8/13(月)～8/31(金)2階閲覧室等休室	30												

【～7/24(火) 通常貸出実施(貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】  
 【7/25(水)～9/25(火)夏休み長期貸出実施(貸出冊数6冊以内、返却期限:～10/9(火)】  
 【7/16(月)〈海の日〉】

【7/25(水)～9/25(火)夏休み長期貸出実施(貸出冊数6冊以内、返却期限:～10/9(火)】  
 【8/13(月)～8/31(金)2階閲覧室を蔵書点検のため休室。この間、貸出図書の返却は、図書館1階西側職員通用口横の[図書返却ポスト]をご利用ください。】

【7/25(水)～9/25(火)夏休み長期貸出実施(貸出冊数6冊以内、返却期限:～10/9(火)】  
 【9/17(月)〈敬老の日〉】  
 【9/23(日)〈秋分の日〉】  
 【9/24(月)〈振り替え休日〉】  
 【9/26(水)～通常貸出実施(貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】

開館時間等	
通常開館	9:00～20:00
夏期休業	8/8～9/28 9:00～16:45
夏期休業	8/8～9/28 9:00～16:45
休館日	土・日・祝祭日